

minokamo

暮らしの情報紙 広報みのかも

2022

12.10

No.1074

1979-2022

1961-2022

特集
01

新庁舎整備事業 の現在



Walkable City
Minakama

特集
01

新庁舎整備事業 の現在

問 新庁舎整備推進課 ☎25-2111 内線246



美濃加茂市長 藤井浩人

美濃加茂市の新庁舎整備は、本格的な事業の見直しを開始しています。新庁舎整備についての議論が始まった頃や基本構想策定期間に比べて世の中は大きく変化しました。特に社会の"デジタル化"は市民の皆さんと市役所との関係を大きく変えていくことになるでしょう。また、コロナ禍を経験した私たちの"まちづくり"や人々の交流に対する認識も大きく変わりました。そのような現在の市民の皆さんそれぞれのお考えや、市役所との相違などを今回のアンケートを通じてカタチにしたいと考えました。アンケート結果を新たな初めの一步として、これからの美濃加茂市を考える一つの材料にできたらと思います。

美濃加茂市の新庁舎整備

美濃加茂市役所本庁舎本館は、昭和36年（1961年）に建てられ、今も皆さんに大切に使われています。この61年の間には、まちの発展や人口増加に伴い、西館と分庁舎を建設したほか、洪水などの自然災害にも遭いましたが、その都度改修工事を行いました。工夫しながら使い続けてきました。しかし、電気や水道などの設備も古くなり、維持修繕にも多くの費用が掛かっています。

また、現在の美濃加茂市役所は本庁舎の本館・西館ともに耐震改修工事は終わっていますが、建物本体・設備の老朽化は進行しており、大きな地震が発生した時には、建物は倒壊しないものの、市役所としての機能を維持することはとても難しい状態です。平成28年4月に発生した熊本地震では、被災した自治体の市役所庁舎が大きな被害を受け、市役所が市民サービスを一部提供できないということもありま

した。こうしたことから、市役所には地震などの自然災害が発生した後も、市民の皆さんの安心や安全を守りながら、継続的に市民サービスを提供することができると必要なのです。そこで、市では、平成28年度から新しい市役所庁舎について考える取り組みを本格的に始め、これまで、市民の皆さんからご意見をいただきながら、平成29年度に新庁舎整備の方向性を示す「新庁舎整備基本構想」を策定し、平成30年度から新庁舎の整備地や機能、規模などを示す「新庁舎整備基本計画」の策定を進めてきました。



▲現在の市役所本庁舎

2021 ← 1961

- 2019.8-9**
 - ・新しい市役所をいかしたまちづくりをテーマに市長と語る会を実施
- 2019.12**
 - ・美濃加茂市未来のまちづくり委員会より市へ「新庁舎整備基本計画について機能や規模などを含めて最終答申」
- 2021.11-12**
 - ・市民説明会「新庁舎整備事業市民説明会 2021」を実施

- 2019.2**
 - ・美濃加茂市未来のまちづくり委員会より市へ「新庁舎の整備地として美濃太田駅周辺を選定」とした中間答申
- 2018.3**
 - ・新庁舎整備基本構想を策定
- 2018.8**
 - ・美濃加茂市未来のまちづくり委員会を設置
 - ・市より同委員会へ「新庁舎整備基本計画について諮問」

- 2017.5**
 - ・新庁舎整備に関する市民アンケートを実施
- 2017.6-8**
 - ・新庁舎整備に関する市民ワークショップを開催
 - ・本庁舎の来庁者を対象にアンケートを実施
- 2018.1**
 - ・新庁舎整備基本構想策定委員会より市へ、新庁舎の基本理念、基本方針、整備候補地（4箇所）など、新庁舎整備基本構想について答申

- 2016.12**
 - ・新庁舎整備基本構想の策定に着手
- 2017.2**
 - ・新庁舎整備基本構想策定委員会を設置
 - ・市より同委員会へ「新庁舎整備基本構想について諮問」



▲新庁舎整備基本構想策定委員会

- 1979.3**
 - ・市役所西館が完成
- 1983.9**
 - ・9.28災害で被災
- 1990.3**
 - ・市役所分庁舎が完成
- 1961.4**
 - ・市役所本庁舎が完成
- 2003.10**
 - ・市役所本庁舎本館および西館の耐震補強工事が完了



美濃加茂市役所新庁舎整備における市民アンケート調査結果

このアンケート調査は、新庁舎整備についての市民の皆さんの意見を把握し、これまでの進め方について検証を行い、今後の進め方の参考とすることを目的に実施しました。ここからは、このアンケート調査における結果の一部をご紹介します。なお、アンケートの比率はすべて%で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため比率の合計が100.0%にならないことがあります。

Q 最近1年間の市役所の利用頻度について

市役所の利用頻度は、「年数回程度」(48.7%)が最も高く、次いで「年1回程度」(29.0%)、「月1回以上」(6.2%)、「週1回以上」(0.9%)でした。また、「利用していない」人の割合は14.2%でした。

Q 美濃太田駅周辺整備地への賛否について

美濃太田駅周辺を新庁舎の整備地とした(旧)新庁舎整備基本計画の見直しに伴い、(旧)新庁舎整備基本計画の内容への賛否について伺いました。

その結果、美濃太田駅周辺を新庁舎の整備地とした計画に対しては、「反対」(40.8%)が最も高く、次いで「判断できなかった」(31.7%)、「賛成」(26.8%)となりました。



Q 新庁舎整備の認知度について

新庁舎の整備については「知っていた」が83.4%、「知らなかった」が16.0%という結果でした。



新庁舎整備の賛否について認知度別で見ると、整備について知っていた人では「反対」(46.0%)が「賛成」を上回って最も高く、知らなかった人では「賛成」(42.9%)が「反対」を上回って最も高くなりました。



新庁舎整備の見直しへ

令和4年市議会第1回定例会で藤井浩人市長は、「新庁舎整備事業の見直しにあたっては、基本構想にある新庁舎整備の基本理念、基本方針などのコンセプトを尊重しつつ、コロナ禍を経た社会情勢の変化やデジタル化の進展による新しい行政サービスのあり方などの視点を付与し、基本構想において示された4カ所の候補地の見直しも含め、新たな新庁舎整備に向けた取り組みを始めていきたい」との考えを示しました。

今年度、市では「新庁舎整備基本計画がなぜ多くの市民と合意形成をすることができなかったのか」について、市民アンケートを実施したり、新庁舎整備事業プロジェクトチームを発足させたりして検証を開始しました。市民アンケートは、再度市民の皆さんのご意見や新庁舎に対する考えを把握し、これまでの新庁舎整備の推進についても検証しながら、今後の進め方に反映するために実施しました。



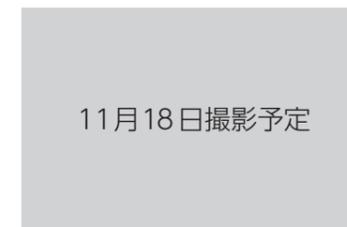
▲新庁舎整備の市民アンケート

統計学上、アンケート回答数が1000以上であれば、対象人口全体にアンケート調査をする場合と比較して、誤差は3%以下になるとされており、高い精度で市民全体の傾向が把握できることから、今回はこの方法を採用させていただきました。今年の7月22日から8月12日にかけて実施した市民アンケートは、無作為抽出した市内に在住する15歳以上の市民4000人を対象に実施。その結果、回収率45.2%、1809人から回答をいただくことができましたので、次のページからは、その一部をご紹介します。なお、市職員へもアンケートを実施し、庁舎で実際に働く職員の意見も把握しました。

2022

2022.7

- ・新庁舎整備事業プロジェクトチーム「検証部会」が始動



2022.7-8

- ・新庁舎整備における市民アンケート調査を実施

2022.11

- ・新庁舎整備における市民アンケート調査結果を市ホームページなどで公表

2022.3

- ・新庁舎整備基本計画(案)を白紙とし、新庁舎整備事業を見直すことを政策決定

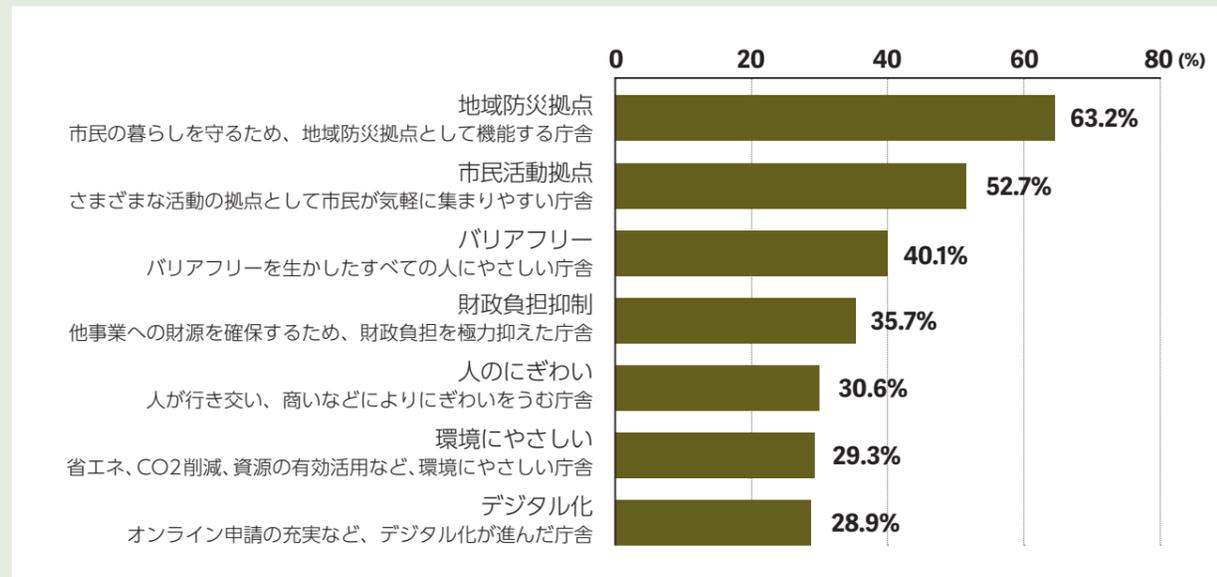
2022.4

- ・新庁舎整備事業について検証を開始
- ・新庁舎整備事業プロジェクトチーム「情報整理部会」が始動



Q 新庁舎整備において大切にすべき視点について

新庁舎整備において最も大切にすべき視点について、第1位から第3位までを回答いただきました。その結果、第1位から第3位の合計では、「地域防災拠点」(63.2%)が最も高く、次いで「市民活動拠点」(52.7%)、「バリアフリー」(40.1%)となりました。



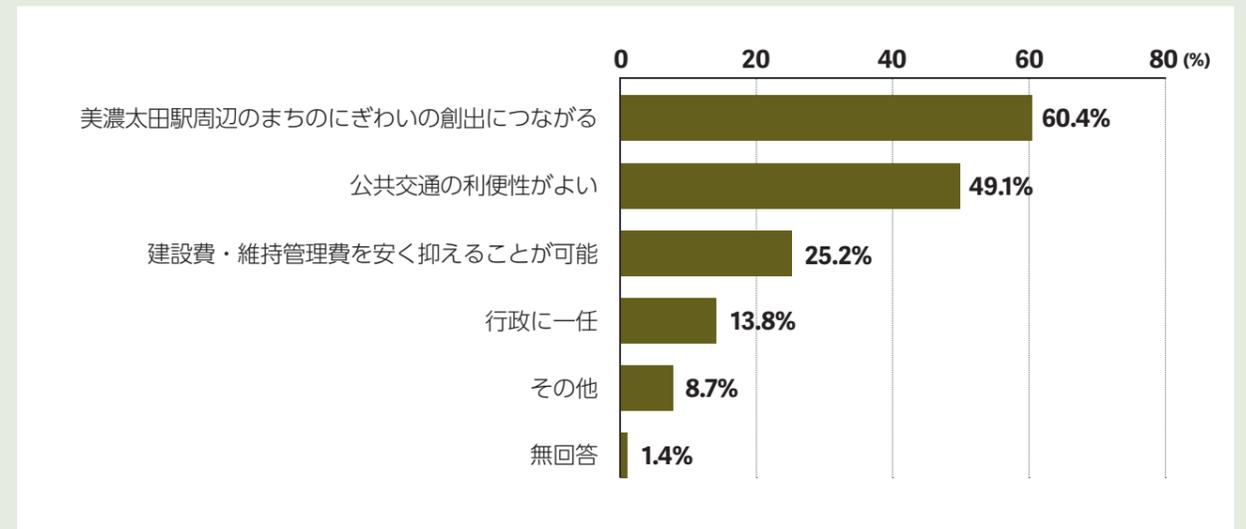
新庁舎整備において大切にすべき視点について年代別でみると、10歳代では「市民活動拠点」が最も高く、20歳代以上ではいずれの年代でも「地域防災拠点」が最も高くなっています。

また、10歳代～40歳代では「デジタル化」が、50歳代～70歳代では「環境にやさしい」が、30歳代以上では「財政負担抑制」がそれぞれ5位以内に上がってきています。

年代	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
10歳代	市民活動拠点 (57.1%)	バリアフリー (55.8%)	地域防災拠点 (54.5%)	人のにぎわい (42.9%)	デジタル化 (27.3%)
20歳代	地域防災拠点 (49.3%)	バリアフリー、デジタル化 (同率 48.5%)		人のにぎわい、市民活動拠点 (同率 41.2%)	
30歳代	地域防災拠点 (56.1%)	デジタル化 (47.3%)	市民活動拠点 (44.4%)	財政負担抑制 (39.5%)	バリアフリー (37.1%)
40歳代	地域防災拠点 (67.0%)	市民活動拠点 (57.3%)	財政負担抑制 (37.3%)	バリアフリー (36.7%)	デジタル化 (32.3%)
50歳代	地域防災拠点 (64.0%)	市民活動拠点 (50.3%)	バリアフリー (39.9%)	財政負担抑制 (34.6%)	環境にやさしい (32.9%)
60歳代	地域防災拠点 (67.1%)	市民活動拠点 (53.0%)	財政負担抑制 (41.3%)	バリアフリー (36.2%)	環境にやさしい (29.5%)
70歳代	地域防災拠点 (68.7%)	市民活動拠点 (55.4%)	バリアフリー (41.5%)	財政負担抑制 (36.5%)	環境にやさしい (30.0%)
80歳以上	地域防災拠点 (62.1%)	市民活動拠点 (60.9%)	バリアフリー (42.0%)	人のにぎわい (33.7%)	財政負担抑制 (27.2%)

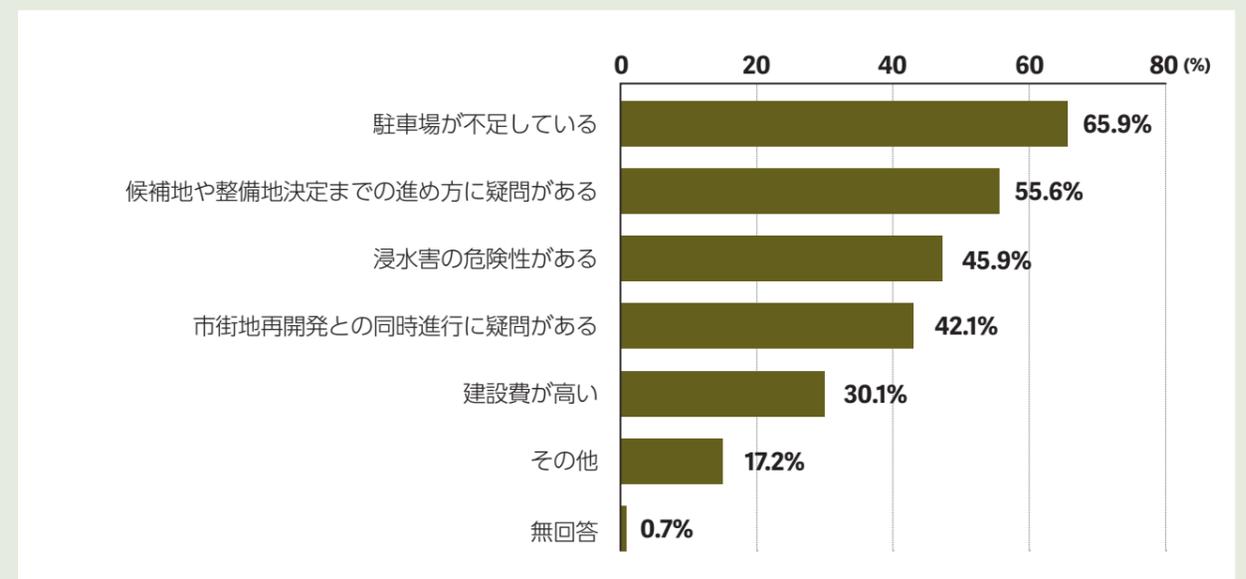
Q 美濃太田駅周辺整備地に賛成した理由について

美濃太田駅周辺整備地に賛成した理由としては、「美濃太田駅周辺のまちのにぎわいの創出につながる」(60.4%)が最も高く、次いで「公共交通の利便性がよい」(49.1%)、「建設費・維持管理費を安く抑えることが可能」(25.2%)という結果でした。



Q 美濃太田駅周辺整備地に反対した理由について

美濃太田駅周辺整備地に反対した理由としては、「駐車場が不足している」(65.9%)が最も高く、次いで「候補地や整備地決定までの進め方に疑問がある」(55.6%)、「浸水害の危険性がある」(45.9%)、「市街地再開発との同時進行に疑問がある」(42.1%)という結果でした。



Q 新庁舎に関わる情報発信として利用しやすい媒体について

新庁舎に関わる情報発信として、利用しやすい広報媒体を選択式で複数回答をいただいた結果、広報紙「広報みのかも」(68.7%)が最も高く、次いで「自治会の回覧」(43.7%)、「市ホームページ」(35.1%)、「SNS」(24.3%)、「すぐメールみのかも」(23.6%)となりました。

なお、年代別でみると、20歳代以下では「SNS」が最も高く、30歳代以上では「広報みのかも」が最も高くなっています。また、20歳代・40歳代・50歳代では「市ホームページ」が高くなっています。

年代	第1位	第2位	第3位
10歳代	SNS (66.2%)	広報みのかも (36.4%)	自治会の回覧 (28.6%)
20歳代	SNS (57.4%)	市ホームページ (42.6%)	広報みのかも (37.5%)
30歳代	広報みのかも (49.3%)	SNS (48.3%)	市ホームページ (39.5%)
40歳代	広報みのかも (66.0%)	市ホームページ (42.3%)	自治会の回覧 (39.3%)
50歳代	広報みのかも (72.4%)	市ホームページ (43.7%)	自治会の回覧 (40.6%)
60歳代	広報みのかも (79.2%)	自治会の回覧 (49.3%)	市ホームページ (43.3%)
70歳代	広報みのかも (84.8%)	自治会の回覧 (62.2%)	新聞への折込ちらし (22.0%)
80歳以上	広報みのかも (81.1%)	自治会の回覧 (66.3%)	新聞への折込ちらし (21.3%)

■「美濃加茂市役所新庁舎整備における市民アンケート調査結果」の詳細は市ホームページへ

「美濃加茂市役所新庁舎整備における市民アンケート調査結果」など新庁舎整備事業の経緯の詳細については、市ホームページに掲載しています。また、アンケート結果については、新庁舎整備推進課窓口（市役所本庁舎本館2階）でもご覧いただけます。

※市ホームページは、右の二次元コードからも確認いただけます



アンケート結果には多くの発見がありました。それぞれの市民の皆さんのお考えに、重なる点、異なる点、いろいろあったことでしょう。
 新庁舎整備は市にとって大切な事業です。しかしながら、私たちが抱える課題をすべて解決してくれるわけではありません。新庁舎によって解決すべき課題もあれば、ほかのさまざまな方法によって解決できる課題もあります。
 市民の皆さんが将来の美濃加茂市の姿をどのように描いているのか、今後情報共有しながら、意見交換を重ね、未来への架け橋となるような新庁舎を、市民の皆さんと共にカタチにしていきます。

Q 新庁舎の建設エリアで重要視する内容について

新庁舎を建設するエリアを選ぶうえで重要だと思うものを項目化し、「防災面の安全」、「駐車場の確保」、「集いやすさ」、「費用抑制」、「公共施設近接」、「自然・景観」について、それぞれ点数を付けていただきました。

「とても重要だと思う」を5点、「重要だと思う」を4点、「少し重要だと思う」を3点、「あまり重要ではない」を2点、「全く重要ではない」を1点として平均点を計算すると、次のような結果となりました。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平均点	防災面の安全 防災面において安全で安心 (4.45点)	駐車場の確保 駐車場が確保できる (4.38点)	費用抑制 土地の取得を含め費用が抑えられている (4.00点)	集いやすさ 誰もが利用しやすい立ち寄りやすい (3.91点)	公共施設近接 他の公共施設との距離が近い (3.30点)	自然・景観 自然環境や景観などが整っている (3.02点)

年代別でみると、30歳代・40歳代では「駐車場の確保」が最も高く、他の年代では「防災面の安全」が最も高くなっています。また、40歳代以下および80歳以上では「集いやすさ」が「費用抑制」を上回っています。

年代	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
10歳代	防災面の安全 (4.66点)	駐車場の確保 (4.29点)	集いやすさ (4.23点)	費用抑制 (3.97点)	公共施設近接 (3.64点)	自然・景観 (3.29点)
20歳代	防災面の安全 (4.49点)	駐車場の確保 (4.47点)	集いやすさ (4.15点)	費用抑制 (3.98点)	公共施設近接 (3.64点)	自然・景観 (3.07点)
30歳代	駐車場の確保 (4.41点)	防災面の安全 (4.40点)	集いやすさ (4.06点)	費用抑制 (3.94点)	公共施設近接 (3.36点)	自然・景観 (2.75点)
40歳代	駐車場の確保 (4.54点)	防災面の安全 (4.46点)	集いやすさ (4.01点)	費用抑制 (3.86点)	公共施設近接 (3.26点)	自然・景観 (2.81点)
50歳代	防災面の安全 (4.40点)	駐車場の確保 (4.39点)	費用抑制 (3.98点)	集いやすさ (3.89点)	公共施設近接 (3.20点)	自然・景観 (2.93点)
60歳代	防災面の安全 (4.45点)	駐車場の確保 (4.39点)	費用抑制 (4.18点)	集いやすさ (3.72点)	公共施設近接 (3.08点)	自然・景観 (3.08点)
70歳代	防災面の安全 (4.43点)	駐車場の確保 (4.26点)	費用抑制 (4.09点)	集いやすさ (3.73点)	公共施設近接 (3.23点)	自然・景観 (3.21点)
80歳以上	防災面の安全 (4.44点)	駐車場の確保 (4.21点)	集いやすさ (3.94点)	費用抑制 (3.88点)	公共施設近接 (3.56点)	自然・景観 (3.31点)

新庁舎PTIで事業検証へ

新庁舎整備事業プロジェクトチームでは、課長級の職員で構成する「情報整理部会」と、ファシリテーターを務める外部有識者と課長補佐・係長級の職員で構成する「検証部会」の2つの部会を設置しました。

情報整理部会では、これまでの新庁舎整備事業の経緯について整理するとともに、公共施設の維持管理上の課題や、想定される災害に対応するための課題など自治体として解決しなければならぬ課題について内容を精査し、検証や解決のために必要な情報を整理しています。

また、検証部会では、情報整理部会からの情報などをもとに、基本計画が多くの市民と合意形成できなかった原因やこれまでの進め方などについて検証を始めており、7月の発足から11月までに、市民と合意形成をする上で明らかにした方が良いことや、市民アンケートの結果から読み取れることなどについて、計7回の会議を重ねています。